

令和元年度 学校経営計画に対する最終報告書

石川県立羽咋工業高等学校

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び後期の扱い(改善策等)
<p>1 生徒全員の進路実現のため、全教職員が、ICT活用や主体的・対話的で深い学びの推進等を掲げた本校の学習指導方針(スクールポリシー)のもと、学力スタンダード等を活用して、個人として教科としての授業改善を実践するとともに、資格取得を奨励し、生徒の学力向上に努める。</p>	<p>① 思考力・表現力・コミュニケーション力の向上のため、ICT機器を効果的に活用し、「主体的・対話的で深い学び」を主とした互観授業や公開授業・研究授業に取り組む。</p>	<p>授業改善に向けた互観授業や公開授業、研究授業等を年間3回以上取り組んだ教員の割合が A 80%以上 B 65%以上 C 50%以上 D 50%未満</p>	<p>1月末までに実施した人数 教諭・講師 29名 3回以上 22人(76%) 2回 3人(10%) 1回 4人(14%) 評価: B</p>	<p>教諭・講師29名のうち1月末までに互観授業や公開授業、研究授業等を3回以上実施した人数は22人で76%となっているが、2月以降に実施予定の授業もある。PC・タブレット端末等のICT機器を使用する授業やアクティブ・ラーニング型授業も年々増加している。 次年度以降は出来るだけ早い時期での実施、「主体的・対話的で深い学び」に於ける授業をめざし、生徒の思考力・表現力・コミュニケーション力の育成と学力向上につながる授業改善を進めていきたい。</p>
	<p>② 学力向上を図るために、教科の宿題やレポートの出題方法と回数工夫するとともに、授業と資格取得の補習指導を通して、家庭等での自学自習する習慣を身に付けさせる。</p>	<p>宿題・レポート・資格取得などの自学自習について A 十分取り組むことができた B おおむね取り組むことができた C あまり取り組むことができなかった D 全く取り組むことができなかった</p>	<p>生徒対象に12月にアンケート調査 A: 45% B: 47% C: 8% D: 0% 評価: A・B合わせて92%</p>	<p>生徒対象アンケート結果は、A・B合わせて92%となり、判定基準の80%を上回った。特にAは45%と中間評価から5ポイントアップした。これは宿題やレポート、資格取得に向けた学習によるものと考えられる。ただし、別の調査では家庭学習(予習・復習・資格検定の勉強なども含む)に取り組んでいない生徒も35%と多い。次年度も判定基準を継続し、基礎学力の定着や資格取得に向け、家庭学習が習慣化できるように取り組んでいきたい。</p>
	<p>③ 毎月、図書便りを発行し全教員の「お薦めの本」を紹介するとともに、「読書週間」などの読書運動を全校的にを行い、読書の習慣を身に付けさせる。</p>	<p>個人的な読書、授業や課題研究等の学習で、図書館の書籍を A おおいに利用している B ある程度利用している C あまり利用していない D 全く利用していない</p>	<p>生徒対象に12月にアンケート調査 A: 43% B: 18% C: 20% D: 19% A・Bあわせて61%</p>	<p>生徒対象アンケート結果は、A・B合わせて61%となり、判定基準の50%を上回った。全学年を対象として朝読書を実施したことにより、図書館の利用者数、貸出冊数の増加につながったと考えられる。 次年度も判定基準を継続し、生徒の図書館利用促進及び書籍の貸出し数増加に向け、各教科とも連携をとりながら、継続的に取り組んでいきたい。</p>
	<p>④ 資格・検定取得の説明機会を増やして受験を奨励するとともに、課外補習を充実させ合格者数を増加させる。</p>	<p>1月末での資格・検定試験延べ合格者数が学校全体で A 800人以上 B 700人以上 C 550人以上 D 550人未満</p>	<p>1月末の資格・検定試験合格者数を検証 1月末現在では844人 評価: A</p>	<p>1月末現在の集計では、資格・検定試験合格者数は844人となり、判定基準であるA評価(800人以上)を達成した。年度末までにさらに増加する見込みである。工業3学科・共通教科・クラス担任の連携した受検奨励及び補習の充実により目標を達成できた。 次年度も判定基準を継続し、難関資格取得と学校全体の合格者数を増加させたい。また、技能検定等、実務に対するスキルを身に付けた人材育成を進めていきたい。</p>
	<p>⑤ ジュニアマイスター顕彰のゴールド特別表彰およびゴールド・シルバー・ブロンズの取得を目指し、学校全体で多くの資格・検定への挑戦意識を高めて認定者数を増加させる。</p>	<p>ジュニアマイスター顕彰ゴールドおよびシルバーの認定者数が学校全体で A 80人以上 B 65人以上 C 50人以上 D 50人未満</p>	<p>申請者数を検証 今年度認定者数85人 (ゴールド56名) (シルバー29名) 評価: A</p>	<p>1月末現在の集計で、ジュニアマイスター顕彰申請者の延べ人数はゴールド・シルバーの合計が85名でA評価となった。「ゴールド特別表彰」は20名となり、昨年の21名(過去最高値)とほぼ同数となった。今年度卒業予定者の取得者数は、76名で取得率は63%である。これは、特別表彰という高い目標を掲げ、難関資格に挑戦した結果である。次年度も継続してジュニアマイスター顕彰認定者の増加を目指し、学校全体で資格・検定取得を推進したい。</p>
	<p>⑥ インターンシップや地元企業説明会等により適切な進路選択を促進させるとともに、進路説明会やLHなどで進路に向けた情報提供を行う。</p>	<p>各種進路指導行事・LHなどによる説明や進路情報により、意識が A たいへん高まった B ある程度高まった C あまり変わらない D 全く変わらない</p>	<p>生徒対象に12月にアンケート調査 A: 60% B: 36% C: 4% D: 0% 評価: A・Bあわせて96%</p>	<p>生徒対象アンケートの結果、A・B合わせて96%となり、判定基準の90%を上回った。本年度も2年生全員参加のインターンシップを10月に実施した。また、12月の1、2年生全員参加の「地元企業を知る会」での事後アンケートで自分の進路に役立ったという生徒は1年生が97%、2年生が98%と好評であった。 次年度も判定基準を継続し、引き続き、A評価の割合が高くなるよう進路指導課と学年団が協力し、行事や学年ごとで必要とされる進路資料の作成や活用方法を検討しながら計画的に取り組んでいきたい。</p>
	<p>⑦ 進路希望の達成のために指導の充実を図る。 基礎学力の定着を図ると共に、授業でコミュニケーション力を付けさせる工夫を行う。 外部講師による講演や面接指導、全教員による個別面談・指導を充実させる。</p>	<p>朝学習や日頃の学習、面接指導などにより、基礎学力やコミュニケーション力が A たいへんついた B ある程度ついた C あまりつかなかった D 全くつかなかった</p> <p>1回目の就職試験における内定率が A 90% B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満</p>	<p>3年生を対象に12月にアンケート調査 A: 58% B: 39% C: 3% D: 0% 評価: A・Bあわせて97%</p> <p>3年生を対象に12月末に調査 1回目の内定率 97% 評価: A</p>	<p>生徒対象アンケートの結果、A・B合わせて97%となり、昨年度より7ポイント上昇し、判定基準の80%を上回った。朝学習ではマナトレやSPI演習、基礎学力定着用の問題などに対し各学年とも落ち着いて取り組んだ。今年度も6月から面接指導をスタートさせコミュニケーション力の向上を図った。また進学希望者に対しては、高校の基礎固めとして6月から12月まで毎日科目を決めて補習を実施してきた。 次年度も判定基準を継続し、企業の求める人材について研究し、その力を付けさせる様に努力するとともに、進学希望者に対しては上級学校進学後の学習を見据えて、補習等により学力向上を図りたい。</p> <p>学校幹旋で1回目の就職試験を91名が受験して88名が内定した。内定率は97%であり判定基準を上回った(1月末現在、就職内定者は学校幹旋が91名、縁故が1名、公務員が1名)。求人数は、近年、県内・県外共に増加しており、恵まれた状況である。今年度も地元企業への内定者が多く、地元企業の担い手としての人材を送り出すことができた。 次年度も判定基準を継続し、従来の指導を継続させるとともに、企業の要望や求める人材の情報を積極的に集め、計画的に対応していきたい。</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<p>○多くの生徒が資格取得について頑張っている。進路が内定した3年生が卒業間近にして資格を取得していることに驚いた。 ○課題研究の発表を見て、生徒が頑張っている状況がよくわかった。来年もぜひ見に行きたい。</p>			
<p>学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策</p>	<p>○資格取得の奨励は今後も継続し、難関資格取得者と全体の合格者を増加させる。 ○今年度は求人数が多く、全員就職は内定したが、今後も保証されているわけではないので、次年度も危機感を持って生徒全員の進路実現のため、学力向上に取り組むとともに、進路関係行事を継続し、良識があり、将来地域に貢献できる生徒の育成に努める。</p>			

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び後期の扱い(改善策等)	
2 心身ともに健康で逞しい(タフな)人づくりを目指し、部活動や生徒会活動の活性化に努めるとともに、規範意識を高め、いじめを見逃さない学校づくりに努める。	① 県高校総体・新入大会で団体・個人とも上位入賞を目指し、高体連表彰取賞を獲得する。	県高校総体の総合得点が A 75点以上 B 60点以上 C 50点以上 D 50点未満	県高校総体総合成績(最終結果) 75.5点(14位) 男子61.5点8位 評価:A	県高校総体の最終結果は総合得点75.5点でA評価を達成するとともに4年連続の取賞を受賞した。この結果は、ヨット部男女の優勝、弓道部男子・剣道部男子の団体準優勝、ソフトテニス部男子、卓球部男子、バスケットボール部のベスト8による得点獲得が大きく貢献したものである。(昨年度総合得点は76.5点、順位16位)次年度は5年連続の取賞獲得を目指したい。	
	② 文化部の重複加入を奨励し、各部の取組に、生徒が積極的に活動し、より良い成果を収める。	文化部の活動と成果に満足しているか A たいへん満足している B おおむね満足している C あまり満足していない D まったく満足していない	文化部の活動と成果に満足しているか A たいへん満足している B おおむね満足している C あまり満足していない D まったく満足していない	生徒対象に 12月にアンケート調査 A:69% B:28% C:2% D:1% 評価:A・B合わせて97%	文化部加入者対象アンケートの結果、A・B合わせて97%となっている。5ポイントアップとなり高い評価結果になった。(昨年度92%) 今年度は写真部の全国高校総体への作品の出品、マイコンカーやソーラーラジコンカーの活躍が目立った。また、9月末に行われた文化祭や高文連各種行事等の活動の場で、より多くの成果が得られた。 次年度も文化部活動の積極的な取組を推進していきたい。
	③ 生徒会を中心にして行事への参画意識を高め、生徒が自主的に活動する行事にする。	生徒会行事に満足しているか A たいへん満足している B おおむね満足している C あまり満足していない D まったく満足していない	生徒会行事に満足しているか A たいへん満足している B おおむね満足している C あまり満足していない D まったく満足していない	生徒対象に 12月にアンケート調査 A:62% B:37% C:1% D:0% 評価:A・B合わせて99%	生徒対象アンケートの結果、A・B合わせて99%と高い評価結果となった。学校祭の成功により、高い評価が得られたものと分析している。(昨年度95%) 学年末まで生徒会行事が残っており、最後まで全校生徒が満足できるように、生徒会執行部を中心にしっかり指導していきたい。 次年度も生徒の自主性を育み、行事への参画意識を高めていきたい。
	④ 規則やマナーを守り、思いやりの心を育むため、生徒への声かけを増やし、生徒との相互理解を深めるとともに、規範意識を向上させる。	本校の教育活動や規範意識向上の取組により、規範意識やいじめ防止の意識が身についたか A 十分身についた B 少し身についた C あまり身につけていない D 全く身につけていない	本校の教育活動や規範意識向上の取組により、規範意識やいじめ防止の意識が身についたか A 十分身についた B 少し身についた C あまり身につけていない D 全く身につけていない	生徒対象に 12月にアンケート調査 A:75% B:24% C:1% D:0% 評価:A・B合わせて99%	生徒対象アンケートの結果、A・B合わせて99%となり、目標の判定基準の85%を上回った。日々の「登校指導」や「校内巡視」などを通して、「通学自転車の施錠」や「校内におけるスマートフォン(携帯電話)の使用禁止」などの指導によって、生徒の規範意識やいじめ防止の意識が高まったものと考えられる。 次年度もこの取組を継続して、規範意識の高い社会人を育てていきたい。
	⑤ 保健日より集会、SH等を利用して、生徒の心身の健康管理についての意識の高揚をはかる。	自分自身の心と体の健康管理について、日頃から意識して生活しているか A 常に意識している B ある程度意識している C あまり意識していない D まったく意識していない	自分自身の心と体の健康管理について、日頃から意識して生活しているか A 常に意識している B ある程度意識している C あまり意識していない D まったく意識していない	生徒対象に 12月にアンケート調査 A:53% B:40% C:6% D:1% 評価:A・B合わせて93%	生徒対象アンケートの結果、A・B合わせて93%であり、中間調査より2ポイントアップした。判定基準の80%以上も達成できた。インフルエンザや感染性胃腸炎等が流行しやすい時期であり、感染症の予防を中心として、各自が心身の健康管理ができるように、保健日よりや昼食時間帯の放送等の利用により、健康に対する意識が高まったものと考えられる。 次年度も取組を継続し、生徒の心身の健康に対する意識を高めていきたい。
3 社会貢献や環境に対する意識を高めるため、工業学習成果の提供やボランティア活動等を積極的にを行い、地域社会との連携を深める。	① 社会に貢献する大切さや必要性を認識するために、地域ボランティア活動や校外での一日一善運動を推奨する。	地域ボランティア活動や一日一善運動を通して社会貢献の大切さを理解しているか A 十分理解している B ある程度理解している C あまり理解していない D 全く理解していない	生徒対象に 12月にアンケート調査 A:70% B:27% C:3% D:0% 評価:A・B合わせて97%	生徒対象アンケート、A・B合わせて97%と前年同様高い評価となった。(昨年度98%) 「一日一善運動」や「ボランティア清掃」への生徒の取組も、社会貢献の大切さを理解し真摯に取り組んでいる。 次年度も日々の生活の中で各自が主体的に行動できる力を培い、この地域に貢献していける生徒を育てていきたい。	
	② 環境保全のこれまでの取組を向上させ、ゴミ分別や環境保全が正しく行われているかを評価し、環境に対する意識の向上を目指す。	環境保全(ゴミの分別・節水・節電等)に取り組んでいる割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	環境保全(ゴミの分別・節水・節電等)に取り組んでいる割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	生徒対象に 12月にアンケート調査 A:61% B:34% C:4% D:1% 評価:A・B合わせて95%	生徒対象アンケートの結果、A・B合わせて95%と前年度同期を少し上回る高い結果となった。今後も保健指導課の清掃活動や生徒会課の一日一善運動に加えて、生徒指導課の規範意識向上の取組等とも関連させながら、環境保全とともに環境美化について生徒の意識高揚と実践力を培っていききたい。前期のAが52%であったことから生徒の意識に向上がみられたと考えられる。
4 教職員が相互に業務を点検し、組織的で効率的な業務のあり方を探る。	① 校務分掌ごとに業務の重複を点検し、整理に努めることで、多忙化を改善する。	各分掌内の定期的な会議において、主管する行事や業務見直しの協議成果として A 改善を十分行えた。 B 改善をある程度行えた。 C 改善をあまり行えなかった。 D 改善を行えなかった。	職員対象に 12月にアンケート調査 A:29% B:54% C:14% D:3% 評価:A・B合わせて83%	職員対象のアンケートの結果、A・B合わせて83%が改善を行えたと回答した。働き方改革を進めていく上で、業務の見直しや作業の効率化を図ることは必要である。今後も各分掌内において協議をするとともに、多忙化改善に向けた取組を進めていきたい。特に、業務を平準化して、働き方改革を進めていきたい。前期のAが13%であったことから少し進展がみられたと考えられる。	
学校関係者評価委員会の評価		○学校の外でも生徒は「おはようございます。」などの挨拶が出来ており、大変気持ちが良い。○生徒アンケートで学校行事に満足している生徒や規範意識やいじめ防止の意識が身についたと答えた生徒が99%と素晴らしく、先生方の努力が感じられる。 ○ボランティアで海岸清掃をしているようだが、一度海が荒れると自然の力には勝てず、ゴミが散乱している。海岸よりも学校周辺の清掃に力を入れたり、学校として千里浜を守ることをアピールしてはどうか。 ○ゴミの分別などの意識は高いが、卒業後使わなくなった自転車を放置する者がいることは残念である。			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策		○ボランティア活動は周囲のニーズを意識して取り組み、清掃は海岸だけではなく羽咋駅周辺、通学路なども行う。 ○自転車は登録された車両であるため、再利用や販売は難しい。学校として放置しないよう十分言い聞かせ、指導する。 ○部活動や生徒会活動の活性化を推進し、規則やマナーを守り、思いやりの心のある生徒の育成に取り組む。			